

チャペル週報

福音には、神の義が啓示されていますが、それは、初めから終わりまで信仰を通して実現されるのです。

「正しい者は信仰によって生きる」と書いてあるとおりです。

(ローマの信徒への手紙 1:17)



ランバス記念礼拝堂

2008.10.27~11.7 No.18
関西学院宗教センター

☆チャペル・スケジュール☆

時間 10:35～11:05 場所 各学部チャペル

10月27日(月)	神 加 山 智 之 (神4) 経 人間を考える③ 神 崎 高 明 (経済学部教授) 人 嶺 重 淑 (宗教主事)
10月28日(火)	神 宗教改革記念日 David Wider (宣教師) 文 田 淵 結 (宗教主事) 社 秋の音楽チャペル 聖歌隊 法 栗 林 輝 夫 (宗教主事) 経 人間を考える④ 山 鹿 久 木 (経済学部准教授) 商 海 道 ノブチカ (商学部教授) 総 服 部 ゆ り (M2)
10月29日(水)	神 『主の祈り』シリーズ④ 岩 野 祐 介 (神学部助教) 社 いのちを考える⑦ 打 樋 啓 史 (宗教主事) 法 「宗教改革を祈念する」 Christian Morimoto Hermansen (宣教師) 経 宗教総部 商 山 本 俊 正 (宗教主事) 人 English Chapel Els-Marie Anbäcken (人間福祉学部教授) 理 小 林 昭 雄 (名誉教授) 総 秋の音楽チャペル 聖歌隊 (上ヶ原)
10月30日(木)	神 河 村 兼二郎 (M2) 文 秋の音楽チャペル 聖歌隊 社 いのちを考える⑧ Alan Brady (社会学部教授) 法 栗 林 輝 夫 (宗教主事) 経 人間を考える⑤ 藤 原 憲 二 (経済学部専任講師) 商 English Chapel Richard J. Stinson (宣教師) 総 Ruth M. Grubel (院長)
11月 5 日(水)	神 『主の祈り』シリーズ⑤ 山 田 香 里 (神学部専任講師) 社 秋の音楽チャペル ハンドベルクワイア 法 「嵐を静める」 Christian Morimoto Hermansen (宣教師) 経 人間を考える⑥ 前 田 高 志 (経済学部教授) 商 伊 藤 正 範 (商学部准教授) 人 上ヶ原ハピタット 理 「平和」オムリ・ブージッド (総合政策研究科研究員) 総 秋の音楽チャペル バロックアンサンブル
11月 6 日(木)	神 主の祈りの音楽② 水 野 隆 一 (神学部教授) 文 永 田 雄次郎 (文学部教授) 社 共に生きる① 中 野 康 人 (社会学部准教授) 経 人間を考える⑦ 舟 木 讓 (宗教主事) 商 English Chapel Richard J. Stinson (宣教師) 総 Kwansai Gakuin Blessed Choir (ゴスペル) 讚美
11月 7 日(金)	院 岩 野 祐 介 (神学部助教) 神 一 森 文 彰 (M2) 文 English Chapel Andreas Rusterholz (宣教師) 経 舟 木 讓 (宗教主事) 人 杉 野 昭 博 (人間福祉学部教授) 理 「想い出のウイーン少年合唱団」 松 木 真 一 (宗教主事)

“見える化” 宗教改革を覚えて

アンドレアス・ルスターホルツ

1517年の秋に始まった宗教改革という大事件は、地元ドイツの社会だけでなく、世界に大きな影響を及ぼすことになりました。ルターがヴィッテンベルク教会の門に“95箇条の提題”を掲げたことが、その出発点とされています。まるで今でも、釘をその門に打ち込むルターの金槌の音が聞こえるかのように、人びとはそれを語り続けています。ところが、1961年にある学者が、次のような論を発表しました。『マルティン・ルターが1517年10月31日、その教会の門に“95箇条の提題”を掲げたのは、興味を引く伝説にすぎない。』これに対して反論が激しかったのは言うまでもありません。しかし去年、新しい資料が発見され、その学者の伝説論は覆されると主張する人もいます。いずれにしても、ルターのその提題をきっかけに重要な出来事が起こったのは、議論の余地がありません。

自分の考えを普遍的な真理だと思い込み、それを本にまとめて送り出す人々はしばしば現れます。大抵『本当の～』という表現が、その本の題に使われていますが、多くの場合、それについての議論が許されていないのは誠に遺憾で、危険を伴うことではないでしょうか。真理についての議論以前に、そもそも問題と思われることについての議論の場がないような状況は、健全ではないからです。

もちろんルターも、自分の考えは正しいと思っていたでしょう。彼の教会のあり方に対する不安を書面で表すこの提題の序文は、次の言葉で始まります。『真理への愛と、それを明らかにしようとする願いから（中略）マルティン・ルターを議長として、以下にしるされたことについての討論がなされるべきである』と。当時の教会のあり方を見て、それについて討論する必要があると感じて、ルターはその提題を発表しました。そしてその問題提起への反響は跡を絶ちませんでした。

今日、よく目にする言葉を使えば、ルターは当時の問題の“見える化”に力を注いだと言えるでしょう。問題または現状が明らかにされれば、解決までの道は心配するほど遠くはないという意味で、この言葉は使われているのでしょう。真剣に問題に取り込むのは、非常に大切であるということは、ルターのみならず、様々な改革者の行動が示しているとおりです。

（宣教師）

ランバス早天祈祷会 毎金曜日 午前8:20～8:40 於：ランバス記念礼拝堂(上ヶ原)
11月7日(金)社会学部のために 奥野卓司
総合政策学部早天祈祷会 毎木曜日 午前8:40～ 於：宗教主事室

写真展「対岸の肖像～BURAKUとのかけ橋～」とスライド上映、
トークセッションの開催について

・写真展

開催期間：2008年10月20日（月）～29日（水）（日曜日は休館）

開催時間：午前9時（初日は0時30分）～午後10時（土曜日は午後6時30分まで）

会 場：関西学院大学図書館エントランスホール

・スライド上映、トークセッション

開催日時：2008年10月27日（月）午後3時15分～6時

会 場：関西学院大学図書館ホール

トーカー：関西学院大学学生有志、部落解放同盟兵庫県連合会青年部有志
ナビゲーター：阿部 潔（関西学院大学社会学部）

共 催：関西学院大学人権教育研究室、ひょうご部落解放・人権研究所
<吉岡記念館、部落解放・人権教育研究推進・兵庫県大学連絡会第1回例会企画>
協 力：関西学院大学図書館、関西学院大学生活協同組合

お問い合わせ：関西学院大学人権教育研究室（0798-54-6720）
一般参加可・申し込み不要

第7回（2008年度第1回）フィルムセッション

『『性同一性』と私らしさ - セクシュアリティへのこだわりを問いなおす - 』
と題し、「マイノリティ」にとっての「人権」を考えるフィルムセッションを
開催します。

『ヘドウィグ・アンド・アングリーインチ』

（ジョン・キャメロン・ミッチェル監督作品）を観る

日 時：11月10日（月）午後3時15分～6時30分

場 所：大学図書館ホール

トーカー：尾崎日菜子氏（パフォーマンスユニット「ひし形」主宰）

藤田博美氏（プラウドin香川代表/香川レインボー映画祭実行委員長）

ナビゲーター：阿部 潔氏（社会学部教授・人権教育研究室研究部会代表）

関西学院大学人権教育研究室主催・吉岡記念館企画

お問い合わせ：関西学院大学人権教育研究室（0798-54-6720）

一般参加可・申し込み不要

大阪梅田キャンパスチャペルアワー

阪急梅田駅から徒歩すぐ、アプローチタワー14階の大阪梅田キャンパスでは、
下記のとおりチャペルアワーを開催しています。どうぞご参加ください。

10/31（金）アンドレアス・ルスターホルツ（宣教師）

11/7（金）アンドレアス・ルスターホルツ（宣教師）

14（金）アンドレアス・ルスターホルツ（宣教師）

21（金）田淵 結（大学宗教主事）

28（金）田淵 結（大学宗教主事）

いずれも18:00～18:20 1405教室にて